

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 一宮市立朝日西小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒494-0014
一宮市上祖父江字高須賀18番地

E-mail : asanie@city.ichinomiya.aichi.jp

Website : http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/asanishi-e/

児童生徒数：男子 89名 女子 98名 合計 187名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

I 4年生での取り組み

児童に、自分たちを取り巻く環境が、どのような状況下にあるのか認識を深めさせるとともに、環境問題へのさらなる関心を高め、自分たちにもできる活動を模索してほしいと考え、「ぼくら、エコレンジャー」とテーマを決め、環境問題を中心としたESDに取り組んだ。

①水質汚染について

社会科の「水はどこから」の学習計画に合わせて、尾張西部浄水場へ見学に行き、木曽川の水がどのような過程や人の力を経て、飲み水になっているのかを学んだ。

浄水場では、水のいやなにおいや汚れを取るために、活性炭やポリ塩化アルミニウム(PAC)という薬を使うなど、様々な工夫がされていることを学んだ。そして、実際、PACによって汚れを取る凝集実験を体験した。実験は、ビーカーに入っている濁った水にPACを入れ、すばやく均一にかきまぜ、PACと汚れを結合させ、塊としてビーカーの底に沈めていく。PACを入れる前と比べ、実験後の水は、透明度が増し、児童は「きれいになった」と実感していた。

浄水場の施設を見学することで、水が様々な過程を経ることで少しずつきれいになっていくことが理解できた。また、浄水場の方の話聞く中で、自分たちが飲んでいる木曽川の水に関心をもち、木曽川の水をきれいにしていきたいという思いをもつことができた。

②ごみ問題について

ア 一宮市環境センター見学

社会科の「ごみの処理と利用」の学習計画に合わせて、一宮市環境センターへ見学に行った。絶えず市内からごみを運ぶ収集車の様子や、ごみピットにたまった大量のごみを見て、ごみを減らす必要性和リサイクルの大切さについて考えることができた。

イ 古紙回収業者「金光」見学

地域にある資源回収業者へ見学に行った。ここには、資源回収で集められた新聞紙や缶、ペットボトルなどが運ばれている。自分たちの家から出された資源が、それぞれリサイクルするために選別されている様子を見ることで、リサイクルの大切さを学んだ。

ウ 製紙工場「王子マテリア株式会社祖父江工場」見学

古紙から白板紙や段ボール原紙を生産している、王子マテリア祖父江工場へ見学に行った。ここでは、古紙回収業者などから集められた雑誌や段ボールなどの古紙が、一日に1,200tも運ばれ、それらが様々な工程を経て新しく紙として生まれ変わる様子を見学できた。リサイクルの大切さを学ぶとともに、リサイクル製品を使うことも大切だということも学んだ。

③地球温暖化について

児童が育てているツルレイシで「緑のカーテン」を作り、その効果を考える活動を行った。

気温が30℃を越す暑い日、緑のカーテンの下と、緑のカーテンがないところでは、気温に差が出るのかを体感するとともに、実際に温度計を使ってその差を測定した。児童は、緑のカーテンがある方がとても涼しく感じるとともに、気温の差が1.5℃あるとの結果を得た。そしてこの体験から、地球温暖化への対策として、緑のカーテンの果たす役割を考えさせた。

④学習発表会への取り組み

これまで児童が調べたり、見学して学んだりしたことについて、学習発表会で発表をした。同じ環境問題を課題とする小グループに分かれて台本をつくり、自分たちに何ができるか考え、劇や歌を交えながら地域の人に伝えた。

II 全校での取り組み

本校では、全校的な取り組みとして、エコスクール運動、クリーン作戦、PTA資源回収の各活動を実施している。エコスクール運動は、学校生活の中で、資源の有効利用や環境負荷の軽減などによって「地球にやさしい学校づくり」を目指した運動であり、一宮市の環境部が中心となり、企画している。クリーン作戦は、月に2回登校時に児童が地域や通学路のゴミを拾ってきれいにするにより、自分たちの地域を大切に、美しくしていこうとする気持ちを育てる活動である。PTA資源回収はPTAが中心となって地域全戸から回収されてきた資源を分別する作業に児童も参加する活動である。いずれの活動もゴミ問題や資源について考えさせる大切な活動となっている。昇降口に牛乳パックやペットボトルキャップの回収箱を置いたり、各教室には、古紙の回収箱を置いたりなど、エコ活動に取り組んでいる。

①エコスクール運動参加

児童は、「省エネルギー」、「省資源・リサイクル行動」を基本的な取り組みとして、どんな取り組みをするか行動計画書を作成した。省エネルギーについては、電気や水のむだづかいをなくすように、電気スイッチや水道の蛇口に節電や節水を呼びかけるラベルを貼った。「省資源・リサイクル行動」では、昇降口に牛乳パックやペットボトルキャップの回収箱を置いたり、各教室には、古紙の回収箱を置いたりして、生活ゴミを分別し、再利用やリサイクルを行った。また、美化委員が古紙の回収状況を棒グラフに表して、全校に発表した。

②クリーン作戦の実施

クリーン作戦は、毎月、第2木曜日と金曜日に実施している。児童は登校時に、通学団の班長や副班長がビニル袋などを家から持ってきて、集場所や通学路にあるゴミを拾いながら登校した。持ってきたゴミは昇降口で美化委員に渡し、燃えるゴミと燃えないゴミを分別した。ペットボトルや空き缶、紙くずなど拾ってくるゴミは多様である。月に2日間の実施で

あるが、この運動によって、通学路にはゴミが散在していることはなく、児童は気持ちよく登下校している。

③ P T A 資源回収参加

P T A 資源回収は 1 学期に 1 回、2 学期に 2 回、1 年間に 3 回実施している。地区の P T A 委員が各家庭の資源を回収し、学校に搬入している。学校では、P T A 役員や児童、教職員が資源の分別を行っている。夏の暑い時も冬の寒い時も汗いっぱいになって取り組んでいる。自主的であるが、毎回、多数の児童が参加し、保護者と一緒になって活動している。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()